

令和3年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

学校の現状と課題から次の3点を重点課題とした。

- ① 卒業後の就労生活を見据え、身に付けるべき力の整理と習得を目指すための支援の充実<学習活動>
- ② 社会人として健全な自立生活を送るための基盤を養う指導の充実<学校生活>
- ③ 情報モラル教育の充実と ICT 機器を活用した授業づくりのための技能の向上<その他(情報)>

<学習活動>では、二つの目標を達成し、昨年度の反省事項であった互見授業の持ち方を改善し、参加型の研修とすることができたことから「A」評価とした。

<学校生活>では、規範意識向上のための指導の機会を複数回設定し、個別の振り返りも行うことができた。また、外部講師を招聘した講習の機会も予定を大幅に上回る8回設定することができたことから「A」評価とした。

<その他(情報)>では、研修会の実施回数が目標を大幅に上回り8回実施できた。また、教員のICT活用指導力の向上も目標の40%を超え、向上が見られたことから「A」評価とした。

学校評議員会は、新型コロナウイルスの感染症拡大防止のため第3回を紙面開催とし、アンケートによる評価となったが、学校運営やアクションプランの取り組み状況について、専門的な立場からのご意見や感想をいただくとともに、今後に向けての建設的な方策について助言をいただいた。

7 次年度へ向けての課題と方策

本校の使命として「卒業後の就職を目指す生徒の確保」、「卒業予定者全員の一般企業等への就職と職場定着」が挙げられるが、それに加えて「健全な自立生活を送るための基盤の育成」として自己理解の促進と基本的な生活習慣の確立、そして教員のICT活用能力の向上に取り組んできた。今年度見えてきた課題を踏まえ、学校評議員、保護者、地域、関係機関と連携し、上記の使命を果たせるよう新しい教育活動の在り方と就労への課題解決に取り組んでいきたい。

<学習活動>

作業学習の互見授業を引き続き行うとともに、他班の活動を知る機会や参加する教員数を増やし、自班の活動により反映できるようにする。また、チェックシートの作成においては他班の活動を参考に卒業後の就労生活に必要な力について、就労の場だけでなく、日常生活の場においても必要となる項目を取り入れ、改善が図れるようにする。

<学校生活>

今後も社会生活を送る上で必要になるルールやマナー等について学ぶ場を繰り返し設定していくことで、定着を図っていく。また、全体での指導だけでなく、個別での振り返りや、教科と連携した指導等、あらゆる機会を捉えて指導できるようにする。

<その他(情報)>

各教員の、授業での教育用クラウドサービスの活用が定着していくよう研修を継続し、授業研究を行っていく。さらに、教育用クラウドサービスとタブレット端末を効果的に利用できるよう事例を紹介するなど授業研究の機会を設定していくようにする。

8 アクションプラン

令和3年度 富山高等支援学校アクションプラン — 1 —					
重点項目	学習活動				
重点課題	卒業後の就労生活を見据え、身に付けるべき力の整理と習得を目指すための支援の充実				
現 状	<p>本校の生徒は、卒業後の就労と自立した生活に向け、就労意欲や働くためのスキルの向上を目指した学習に取り組んでいる。特に作業学習を学習活動の中核と位置づけ、地域・地元企業と連携しながら生徒の働く力を高め、就労に必要な知識・技能・態度等を身に付けられるよう取り組んでいる。</p> <p>一昨年度から実施している作業学習の互見授業は、各班の活動を知る良い機会となったが、指導のポイントや目標に沿った支援の仕方、振り返りの仕方など各作業班独自の一連の取組を知るには時間が足りなかったと思われる。また、互見授業の実施時期が3学期であったため、各班の工夫や支援は見る事ができたが、自班へ持ち帰り、改善を行った後の効果については十分に検証することができていない状況である。</p>				
達成目標	<table border="1"> <tr> <td>他班の作業学習（授業）への参加</td> <td>改善点についての教員による振り返りの実施</td> </tr> <tr> <td></td> <td>指導の改善案の作成・実施</td> </tr> </table>	他班の作業学習（授業）への参加	改善点についての教員による振り返りの実施		指導の改善案の作成・実施
他班の作業学習（授業）への参加	改善点についての教員による振り返りの実施				
	指導の改善案の作成・実施				
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 5つの作業班のうち、所属経験のある班が2つ以下の教員及び希望者を対象に、他班の作業学習への参加（1日）を実施する。参加教員は、他班での指導で得たことを自班の担当教員間で共有し、自班の作業学習の指導の改善案を作成する。 他班への授業参加の実施時期を2学期中に設定する。 改善を行った点について、班所属教員で振り返りを行い、全教職員で共有する。 				
達 成 度	<table border="1"> <tr> <td>10名の教員が他班の作業学習（授業）へ参加。</td> <td>他班から得たアイデアを自班で共有し、改善案を作成・実施した。</td> </tr> </table>	10名の教員が他班の作業学習（授業）へ参加。	他班から得たアイデアを自班で共有し、改善案を作成・実施した。		
10名の教員が他班の作業学習（授業）へ参加。	他班から得たアイデアを自班で共有し、改善案を作成・実施した。				
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 3日間に渡り計10名の教員が他班の作業学習へ参加（1日）した。今年度は、参観ではなく、指導者として他班の作業に参加する形にしたことで、自班との違いをしっかりと比べることができた。 参加教員を中心として、他班での指導で得たアイデアを自班の担当教員間で共有し、これらをもとに作業学習の改善案を作成した。各班3～4のアイデアを得ることができた。 作成した改善案をもとに授業改善を行い、授業についての振り返りを行った。各作業班で他班への参加で得たヒントや改善点、生徒の変容・課題などに関する資料を作成後、校内研修にて取組を報告し、全教職員で共通理解や意見交換を行った。 				
評 価	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>他班の作業に参加することで、自班との違いをしっかりと比べることができ、自班の授業改善に生かすことができた。さらに授業改善の振り返りを行い、資料にまとめ報告し、全教職員で共通理解や意見交換を行ったことをもってA評価とした。今後も卒業後の就労生活を見据え、必要な力を習得できるよう授業改善が必要と思われる。</td> </tr> </table>	A	他班の作業に参加することで、自班との違いをしっかりと比べることができ、自班の授業改善に生かすことができた。さらに授業改善の振り返りを行い、資料にまとめ報告し、全教職員で共通理解や意見交換を行ったことをもってA評価とした。今後も卒業後の就労生活を見据え、必要な力を習得できるよう授業改善が必要と思われる。		
A	他班の作業に参加することで、自班との違いをしっかりと比べることができ、自班の授業改善に生かすことができた。さらに授業改善の振り返りを行い、資料にまとめ報告し、全教職員で共通理解や意見交換を行ったことをもってA評価とした。今後も卒業後の就労生活を見据え、必要な力を習得できるよう授業改善が必要と思われる。				
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> 作業学習の互見授業は他班をベンチマークとした取組であり、比較することで分かりやすくなっている。 				
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 作業学習の互見授業を引き続き行い、他班の活動を知る機会や教員を増やし、自班の活動に反映しやすくする。 他班の活動を参考に、卒業後の就労生活に必要な力について、就労の場だけでなく、日常生活の場においても必要となる項目を取り入れ、改善が図れるようにする。 				

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和3年度 富山高等支援学校アクションプラン — 2 —

重点項目	学校生活	
重点課題	社会人として健全な自立生活を送るための基盤を養う指導の充実	
現 状	<p>①規範意識に課題がある生徒が多い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に行動選択をする際には、「やってもたいしたことないと思ったから」、「みんなもやっているから」などと、やっではいけないと分かっている方を安易に選択してしまうことが見受けられ、繰り返しの指導が必要である。 <p>②社会常識・モラル等について、知識・技能を正しく身に付ける必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身の偏った認識や間違った理解に気付かなかったり、他者の立場に立つ意識が未熟であったりするために、ネットトラブルやコミュニケーション上のトラブル等が生徒間で起きやすい傾向がある。 ・情報モラル、適切なコミュニケーション、薬物乱用防止等に関して指導の積み上げを図り、自身で判断したり周囲の人や関係機関に相談したりして、適切に対処できる力の向上を図り、健全な自立生活を送れるようにする必要がある。 	
達成目標	①生徒の実態に応じた規範意識向上のための指導と事後のケアの実施	②社会常識・モラル等に関する知識・技能向上のための講習会の実施
		講習会（指導）の振り返り学習の実施（3回）
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる学習活動や生徒指導の機会を捉え、規範意識の向上のための指導をするとともに、生徒の実態や必要に応じて学年・学級単位で、または個別に実施する。また、課題のある生徒には継続的に目配りする。 ・学年や分掌、教科等と連携し、社会人として健全な自立生活を送るための知識や技能を身に付けることができるよう、関係機関等の協力を得て外部講師等による講習会（指導）を実施する。 ・講習会（指導）の実施後、ワークシートを活用して振り返りの学習を行い、学習の定着を図るとともに、教員間の生徒の実態理解を深める。 	
達 成 度	年度当初に生徒指導オリエンテーションを実施（1学年）。また、生徒指導講話と個別の振り返りを実施（2、3学年）。適宜、個別指導や集団への指導を、学年と連携して実施。	健全な自立生活に関する外部講師を招へいしての講習会等及び振り返りを8回実施。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒指導講話（2、3学年）」において、プリントを使用して自らの行動を振り返る活動を取り入れた。また、事後にプリントを基に5～10分程度の個別面談を、生徒指導主事が全員と行った。生徒指導の方向性を示し、その後の指導につなげるのに有効であったと思われる。 ・スマホ・ケータイ安全教室、ネットトラブル防止研修会、ビジネスマナー講座、コミュニケーションセミナー等を計画的に実施し、日常的な各授業、学級・学年での指導等につなげることで、学習内容の般化・定着を図った。 ・一貫した指導が行われたことで、周囲に正しいと思うことを自ら示す生徒も多くみられるようになった。一方で、物事への対処に際した適切な判断・相談についてはまだ課題が多く、同じような問題が繰り返される傾向が続いている。 	
評 価	A	自立的に社会生活を送る上で必要なルールやマナー、知識や技能について、学校生活全般において計画的に繰り返し学習したり、実際の行動を振り返って考える機会をもったりしたことをもってA評価とした。今後も指導を継続し、社会人としてより適切に判断・相談し、行動できる力を養っていく必要があると思われる。
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・個別面談を行ったことは、本人の振り返りにもなり、定着させていく手段として素晴らしいと思う。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も社会生活を送る上で必要になるルールやマナー等について学ぶ場を設定し、定着を図る。 ・全体での指導だけでなく、個別での振り返りや、教科と連携した指導等、あらゆる機会を捉えて指導できるようにする。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和3年度 富山高等支援学校アクションプラン — 3 —

重点項目	学習活動 その他（情報）	
重点課題	情報モラル教育の充実と ICT 機器を活用した授業づくりのための技能の向上	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 生徒1人に1台のタブレット端末が配備され、ICT機器の使用が身近になるに従いSNSの利用方法や個人情報の取扱いなど、ネットトラブルが懸念される。そのため生徒への情報モラル・情報セキュリティに関する指導が重要となっているが、教員の指導するための知識やスキルが十分とは言えない。 教員のICT機器の知識・技能には個人差があり、一人一人がICT機器をより効果的に活用して授業を行うためには、知識の蓄積や技能の向上が必要である。 令和3年3月、本校の「教員のICT活用指導力等の実態調査」では、評価が高くなった教員の割合は65%（達成目標40%以上）であったが、ICT教育推進事業の共通目標である「教員のICT活用指導力100%の実現」には達していない。 	
達成目標	① SNSの利用方法や情報モラルに関する研修等の回数	②指導力等の評価が高くなった教員の割合 ※令和3年2月と令和4年2月の「教員のICT活用指導力等の実態調査」の結果の比較
	3回以上	40%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 研修部と連携して、通年の校内研修実施計画に情報モラル研修（11月）の機会を設ける。 教員の実態やニーズを考慮し、グループでの研修の機会を設けたり、時間的制約の少ない県内外のオンライン研修の情報提供や受講を勧奨したりする。 教員1人1台端末環境の整備を見据え、授業や支援に活用できるアプリ等の情報や使用例を提供する。 全国の実践例や障害者ICT支援センター等の情報等から有用な情報を選択し、紙面回覧やグループウェアで周知を図る。 	
達 成 度	GIGAスクールサポーター（外部講師）を招いての研修会を8回実施。	評価が高くなった教員数の割合 42.1%
具体的な取組状況	<p>① 情報モラルに関する研修は、校内研修としては実施できなかったが、「ICT活用ガイドブック」等の紙面回覧で周知を図った。また、富山県 ICT 教育推進事業 GIGA スクールサポーターを外部講師として招いて、タブレット端末の基本操作の研修を行った。教育用クラウドサービス「Google Workspace for Education」の実践事例を踏まえ、授業や支援に活用できるアプリ等の情報や使用例の研修を行った。その際、教員の实態やニーズに応じて、悉皆研修を5回、希望研修を3回設定した。外部講師を招いて ICT 活用に関する実践的な研修会を開催したことは有効であった。</p> <p>② ①の研修会の実施もあり、教科の授業や作業学習でも ICT 機器を活用する教員が増え、評価が高くなった教員数の割合は42.1%であった。ICT機器活用のスキルにある程度の差はみられるが、各教員の前向きに取り組もうとする姿勢を生かしながら、主体的で継続性のある目標にしていくことが大切である。</p>	
評 価	A	研修会実施については8回実施し、目標を大きく上回った。指導力等の評価が高くなった教員数の割合は42.1%で、昨年度から本校に在職している教員数19名中（内2名が満点）7名の評価が向上した。
学校評議員の意見	・順調に進められている。	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 各教員がさらに教育用クラウドサービスとタブレット端末を効果的に利用できるよう研修を継続し、授業研究を行っていく。 「教員のICT活用指導力等の実態調査」の結果等から教員のニーズに合った講習会を実施する。また、授業での活用の工夫が共有できるよう互見授業を行う。 	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）